

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	大山町地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
大山町	313866	1	平成20年度 ～平成24年度	平成20年度 ～平成22年度
活性化計画の区域				
大山町地区（鳥取県大山町）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加	1.90%	46.49%	2,446.84%	①
地域産物の販売額の増加	1.2%	△32.41%	△2,700.83%	②

(コメント)

地域産物の販売量の増加目標1.90%（H20～24の販売量10,228t÷H15～19の販売量10,037t×100-100）に対して、実績46.49%（H20～24の販売量14,703t）となり、目標を達成した。

地域産物の販売額の増加目標1.2%（H22～24の平均販売見込額723,987千円÷H15～19の平均販売額715,338千円×100-100）に対して、実績△32.41%（H22～24の平均販売額483,508千円）となり、目標を達成できなかった。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
①農林水産物 処理加工施設	農水産物処理加工施設：1棟（540㎡） 駐車場（1,050㎡）		大山町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
（一財）大山恵 みの里公社	平成20年度	平成21年度	平成22年4月1日
事業の効果			
加工施設の建設後、農業生産者や各種団体との連携が強化され、野菜生産部会の育成や所得向上により、生産意欲を高めることが出来た。併せて、加工品の地域ブランド化や学校給食への食材提供等による食育の推進を図ることが出来た。			

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
②農産物集出荷 貯蔵施設	梨選果ライン一式、フリートレー式、 光センサー付き選果機2条2系統		鳥取西部農業 協同組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
鳥取西部農業 協同組合	平成22年度	平成22年度	平成23年6月14日
事業の効果			
光センサー導入により糖度保証を行うことによって進物、直売数量の増加等もあって単価アップを図ることができた。併せて、生産者の生産意欲の向上につながり農業を基幹産業とする本町としては地域活性化につながる事となった。			

3 総合評価

(コメント)

- ① 地域産物の販売量の増加については目標を上回ったが、結果として大山町地域のブロッコリー販売量の飛躍的な伸びが反映されたもので、当初見込んでいた加工施設での取扱数量は微増に留まっている。今後は加工施設で製造する商品の販路拡大、年間を通じた安定出荷と流通量の増大を図ることで、更なる地域産物の販売量の増加と地域活性化につなげていく。
- ② 計画目標を達成することはできなかったが、光センサー導入による糖度保証、品質向上を図ることができた。また、今後、高い販売単価が見込まれる大玉生産や新品種（新甘泉、なつひめ等）の更なる面積拡大を図っていく。併せて、栽培では災害に強い栽培方法を推進し、気象情報の的確な把握、被害の軽減策を徹底し、さらに栽培の省力化や低コスト網の推進により栽培面積の減少を食い止め産地維持に努める。こうしたことにより、今後、販売額の増加を図っていく。

4 第三者の意見

(コメント)

- ① 加工施設での地域産物の使用量は年々増加しており、今後は特産のブロッコリーを使用した加工品開発・販路拡大に取り組むことで、更に販売量を伸ばすことが期待できる。
現状でも加工施設は地域の活性化に貢献しているが、今後は当初の計画品目に固執することなく、納品先のニーズに合うものが供給できるよう体制を見直し、多くの品目を扱うことで農家の所得向上や地域ブランド化・食育の推進等、加工施設本来の設置効果を求めていくことが必要と思われる。
- ② 光センサー付き選果機を導入した結果、新甘泉、なつひめ等において販売単価の上昇は認められた。また、現在、市場評価の高い新甘泉等の増植、品種更新を行っているところであり、今後、これらの収量の増加が見込まれる。さらに、現在、梨栽培においては関係機関からも様々な助成制度も設けられており県内でも有数の梨生産地である当地を維持、発展させていく機運が感じられる。
こうしたことを鑑みた場合に、様々な自然災害により販売量の減少はあったものの、関係者、関係機関のご努力により、今後、梨の作付面積の増加とともに販売量の増加が見込まれ状況は好転するものと思われる。